

令和 6 年度（相模原支援学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
①法令遵守意識の向上（法令の遵守、服務規律の徹底）	勤務時間の内外を問わず、教育公務員であることを常に自覚し、法律やきまりに従って行動する。	○不祥事防止会議や事故不祥事防止研修での注意喚起や、朝の打合せや職員会議等も活用し、通知文書や啓発資料の提示等を速やかに行い、職員全体に適宜適正な行動規範等の呼びかけを継続的に行った。 ○職員行動指針、倫理に関する指針について、研修の際に資料として添付し、意識できるように働きかけた。 ○服務関係の研修を行い、教育公務員の自覚をもって行動することを再確認し、自身の行動を振り返ることができた。
②職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止	他者の人格を尊重した言動・行動を心掛け、風通しのよい、良好な職場環境を作る。	○教員間のハラスメントについて、事故不祥事防止研修において、日頃の言動や行為について注意喚起するとともに、職員間の人権尊重と良好なコミュニケーション等について理解を深めた。
③児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	児童・生徒の意思や行動を尊重した関わりを常に意識し、年齢や性別を意識した対応と指導を行う。	○様々な指導場面で、その場面だけを切り取ったときに、客観的にどのように見えるのかということを考え指導に当たった。 ○日頃の児童生徒の実態に応じた指導・支援について学年会等で再確認する場を設け、共通の認識をもって指導に当たった。
④体罰、不適切な指導の防止	児童・生徒の人権を尊重し、気持ちに寄り添いながら、実態や行動の特性に合った適切な指導を行う。	○教育活動を通じた児童・生徒への言動について、全体で周知確認が必要な事柄については、定例の事故不祥事防止研修や、臨時の全体会等で、各自の行動を振り返る機会を設け人権尊重の意識向上努めた。
⑤入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	入学者選抜、個別教育計画、進路関係書類等の管理と処理を適切に行う。	○個別教育計画や進路関係資料、入学選抜にかかわる資料について、机上に置いたままにしないことや、受け渡しは手渡しで行うこと、鍵のかかる場所で保管することを徹底した。 ○印刷の際にセキュリティプリント設定して印刷することを周知し、取り忘れや、他の書類への混入を防いだ。印刷の際に設定することを徹底し、職員一人ひとりの意識を再度促していく必要がある。
⑥個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報等の適正な管理と運用を徹底する。	○点検啓発資料の回答等を通して、個人情報保護及び情報セキュリティの理解と個人情報の収集や持ち出しのルールを確認した。 ○児童・生徒への配付において、個人情報が含まれているものについては、ダブルチェックをするなど、誤配付防止に努めた。
⑦交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通法規の遵守を徹底する。	○飲酒やながら運転での事故発生について研修を通じて再確認するとともに、交通法規や公務上で車を使う場合について確認も行った。

⑧業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）	日常的に情報共有を行い、相互チェック体制や業務協力体制を整え、適正に業務を遂行する。	○職員間の良好なコミュニケーション等について研修を行い理解を深め、様々な勤務形態の職員がいる中で円滑に業務が遂行できるよう努めた。 ○情報交換、情報共有の時間を確保するとともに、相互チェック体制、業務協力体制を整え、一人に負担がかからないよう留意した。
⑨財務事務等の適正執行	適切な会計の執行・管理を行う。	○適切な執行ができるよう、私費と県費についての確認や、県費対応となる教職員の入場料などの支払いについて、事前に事務担当者と確認できていないところがあり、今後徹底していく。 ○複数でチェックする体制を徹底し、年度途中の財務事務調査で判明した点を速やかに以後の私費会計処理に生かすなど、事務室とも連携して確認することで不適正処理を未然防止できた。

○ 令和6年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和7年度に取り組むべき課題

（学校長意見）

不祥事防止会議と各テーマに沿った研修会を実施するとともに、全職員が不祥事を自分事として意識できるよう努めた。また、県作成の点検啓発資料をFormsにより回答することで、簡単に取り組めるようにし、各項目について正しい答えとミニ知識や考え方を個々にフィードバック、自身の理解度等を振り返り、不祥事の未然防止につなげることができた。

年間を通して、風通しの良い教職員同士が互いを尊重し合う同僚性の高い働きやすい職場づくりに力を入れ、ゆとりの創出や報告・相談しやすい雰囲気を作り、気になることやヒヤリ・ハット事案に対して迅速に対応できた。

今後も、教職員全体のOJTを推進するとともに人権感覚を磨き、互いを認め合い信頼関係を築いて風通しの良い職場をつくること、また、業務内容や量、仕組み等を見直すことで多忙感や疲弊感を減らし、ヒヤリハット等もなくすように努めたい。

そのためには、事案についての的確に原因分析し、再発防止の具体的な手立てを不祥事防止会議等で報告書を活用して共有すること、点検啓発資料とミニ研修の実施、総括教諭や管理職の校内巡回、教職員同士の定期的な振り返り、効果的な不祥事防止全体研修の実施など工夫に努め、不祥事のない職場を目指す。